

あっと! デジタル

朝日新聞 広告制作マニュアル ver.10

〈2018年4月改訂〉

INDEX

ごあいさつ・主な変更点 ————— 2

PDF 送稿の準備 ————— 3

制 作 —————

基本的な注意事項 ————— 5・6

画像データを作成する ————— 7～9

レイアウトデータを作成する ————— 10～12

送稿データを保存する ————— 13～15

送稿データを検証する ————— 16・17

制作上の注意点 ————— 18～20

送稿エラー時の対応 ————— 21

送 稿 —————

ワークフロー ————— 23

本送稿の手順 ————— 24

ゲラ書き ————— 25

送稿の種類 ————— 26

A-CAP 送稿 ————— 27

規 格 —————

原稿サイズ表 ————— 29

FMスクリーンについて ————— 30

チェックシート ————— 31

高品質で安定した広告掲載のために

朝日新聞社では、より高品質で安定した広告掲載のために、A-CAPシステムやFMスクリーンなど、様々な新技術を導入してきました。「あっと！ デジタル ver.10」は、最新のPDFデータによる送稿を安全に行うための制作マニュアルです。PDF送稿データ作成用の「Adobe PDFプリセット」およびPDFデータ検証用の「プリフライトプロファイル」と合わせて、デジタル送稿に最適なデータ作りにご活用ください。

■「あっと！ デジタル ver.10」での主な変更点

プリフライトプロファイルの更新(⇒3 ページ)

朝日新聞の送稿データの検証に使用する「プリフライトプロファイル」を更新しました。

制作環境の変更(⇒5 ページ)

朝日新聞の送稿データを制作する環境を更新しました。

EPS 送稿の取り扱い中止(⇒5 ページ)

EPS 形式のデータによる送稿の取り扱いを中止としました。

単色原稿の取り扱い中止(⇒5 ページ)

単色原稿の取り扱いを中止としました。

モノクロ原稿の注意点を追加(⇒10～13 ページ)

モノクロ原稿を作成する際の注意点を追加しました。

制作上の注意点および送稿エラー時の対応を追加(⇒18～21 ページ)

トラブルの多い事例の注意点と送稿エラー時の対応を追加しました。

メディア送稿の取り扱い中止(⇒24 ページ)

メディアによる送稿の取り扱いを中止としました。

送稿EDIによるオンライン送稿の開始(⇒23・24、26 ページ)

朝日新聞の送稿に適合した「送稿EDI」によるオンライン送稿を開始しました。

その他の変更点については、各ページをご確認ください。

朝日新聞の
PDF 送稿は
新しいカタチへ

PDF 送稿を支援する 「Adobe PDFプリセット」 「プリフライトプロファイル」

PDF 形式でのデータ送稿を安全に行うために、朝日新聞の送稿データ作成用の「Adobe PDFプリセット」およびPDFデータ検証用の「プリフライトプロファイル」をご用意しました。「Adobe PDFプリセット」は朝日新聞の送稿に適したPDFデータを作成するためのツールです。「プリフライトプロファイル」は作成したPDFデータが、朝日新聞の送稿に適応しているかを検証するためのツールです。本データの入手については、下記サイトからダウンロードできます。

朝日新聞社メディアビジネス局 Web サイト「@ADV」

<https://adv.asahi.com>

[@ADV]トップ ▶ [媒体資料] ▶ [あっと! デジタル ver.10]

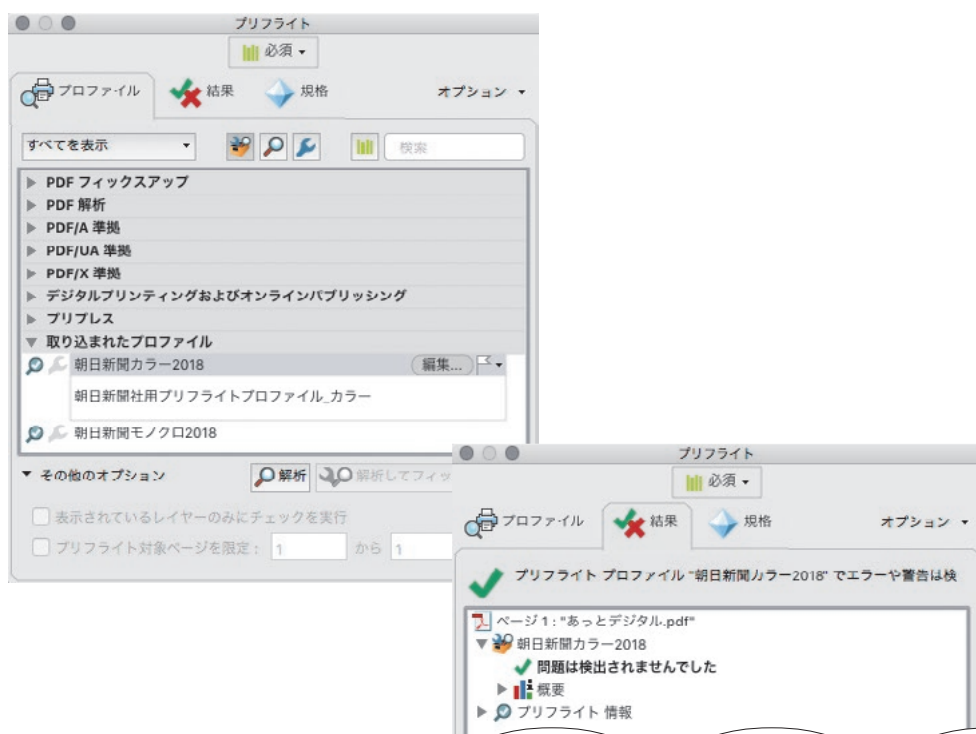
ダウンロードしたデータを解凍してください。

以下の3つのファイルがあります。

- 朝日新聞2013.joboptions (PDFデータ作成用 Adobe PDF プリセット)
- 朝日新聞カラー 2018.kfp (カラー原稿用プリフライトプロファイル)
- 朝日新聞モノクロ2018.kfp (モノクロ原稿用プリフライトプロファイル)



「Adobe PDFプリセット」「プリフライトプロファイル」のインストールおよび使用方法については、「[保存の準備](#)」([⇒14ページ](#))をご参照ください。





制 作

基本的な注意事項

画像データを作成する

レイアウトデータを作成する

送稿データを保存する

送稿データを検証する

制作上の注意点

送稿エラー時の対応

(2018年4月現在)

制作環境(Mac®を使用)

送稿データの制作は右の表の環境で行ってください。

記載の環境は、朝日新聞社で検証済みのものです(すべて日本語版)。アプリケーションについては、メーカーよりアップデートが配布されている場合があります。詳しくはメーカーにお問い合わせください。

最新のOS・アプリケーション・ハードへの対応については、検証が済み次第Webサイトで公開します。

➡<https://adv.asahi.com>

※OSがWindowsの環境で制作する際は未検証のための別途ご相談ください。

OS	macOS®
Adobe Photoshop	CS2(9.0.2)以降
Adobe Illustrator	CS2(12.0.1)以降
Adobe InDesign※1	CS4(6.0.x)以降
Adobe Acrobat※2	9(9.x.x)以降

※1:モノクロ原稿の場合、「透明」「効果」の使用は不可。

※2:Acrobat Proのみ可。

データ形式

送稿データは、朝日新聞の送稿に適合した**PDF形式(PDF/X-1a)**(➡15ページ)で送稿します。各アプリケーションの**ネイティブ形式**および**EPS形式**では送稿できません。

データサイズ

送稿データは**400MB以内**とします。

※パノラマ判については別途ご相談ください。

スクリーン

カラー原稿の場合はFMスクリーン(一部地域AMスクリーン)、モノクロ原稿についてはAMスクリーンとなります。FMスクリーンの特性については、「**FMスクリーンについて**」(➡30ページ)をご覧ください。スクリーン線数、スクリーン角度、網点形状について、朝日新聞の設定は右の表の通りです。

朝日新聞のAMスクリーン設定

	モノクロ	カラー※3
スクリーン線数	141線	141線
スクリーン角度	45°	C15°、M75°、Y0°、K45°
網点形状	円 (Euclidean)	円 (Euclidean)

※3:カラー原稿でAMスクリーンとなる場合。

原稿のカラー

カラー原稿の場合はCMYKの4色印刷となります。**単色原稿での送稿はできません。**



初めてデジタル送稿を行う場合は、このマニュアルに従って原稿制作し、本送稿の前にデータを朝日新聞社までお持ちください。正しく出力できるか確認いたします。ご不明な点は、弊社までお問い合わせください。

基本的な注意事項

孤立点、ガイドなどは問題が発生するので削除する。

広告の原稿サイズとアートボードまたはページサイズを完全に一致させ、ズレていないか確認する。
(送稿データにはアタリ用の罫線やガイドは入れない)

色の指定はCMYKを使用し、4色のインキの総使用量が250%を超えないようにする。

新聞広告の潜在力

朝日新聞

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金をこれに流し込んで鋳造し、この鋳でできた長い版を凸版輪転機にセットして、ようやく印刷に入るといいます。何段版ものステップを踏み、多くの人手を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞制作のCTIS化である。CTISは、ニュース処理を大幅にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができたので、合理化、省力化の面で新聞経営に大きく貢献した。記者ワークフローの導入や、データベースシステムの構築も可能にしたのだ。

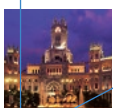
新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金をこれに流し込んで鋳造し、この鋳でできた長い版を凸版輪転機にセットして、ようやく印刷に入るといいます。何段版ものステップを踏み、多くの人手を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞制作のCTIS化である。CTISは、ニュース処理を大幅にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができたので、合理化、省力化の面で新聞経営に大きく貢献した。記者ワークフローの導入や、データベースシステムの構築も可能にしたのだ。



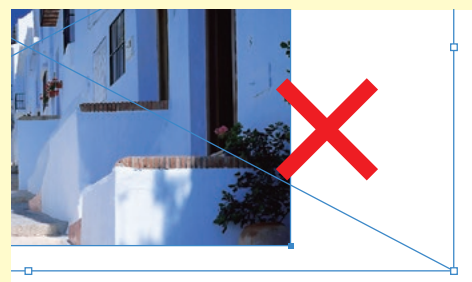
すべてのフォントをアウトライン化する。

画像は、カラーの場合はCMYK、モノクロの場合はグレースケールを使用し、それ以外のカラーモードは使用しない。解像度は適切な数値を設定する。画像はインキの総使用量が250%を超えないようにする。(⇒7ページ)

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金をこれに流し込んで鋳造し、この鋳でできた長い版を凸版輪転機にセットして、ようやく印刷に入るといいます。何段版ものステップを踏み、多くの人手を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞制作のCTIS化である。CTISは、ニュース処理を大幅にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができたのだ。



画像などをマスクする場合、トリミングされた外側のオブジェクトはサイズとして認識されないが、必要以上に送稿データ容量が大きくなるので、できるだけ不要な部分は削除する。



使用アプリケーション

画像データの作成に使用するアプリケーションは、**Adobe Photoshop CS2(9.0.2)以降**を推奨します。

■新聞原稿に適した画像

新聞の送稿用画像では、カラーモード、線数、解像度、ファイル形式などを、右の表に基づいて作成します。特にカラーモード、ファイル形式については、指定外のものを使用しないようご注意ください。また、**不要な部分はトリミングをし、必要以上に高解像度の設定をせず、送稿データ容量が大きくなるように**します。

カラー画像

カラーモード	CMYKモード
線 数	FMスクリーンは無効 AMスクリーンは141線
解 像 度	300~400dpi
ファイル形式	EPS

モノクロ画像

カラーモード	グレースケールモード
線 数	141線
解 像 度	300~400dpi
ファイル形式	EPS

モノクロ2階調画像の解像度(原寸)

すべての広告	1200dpi
--------	---------

■カラー画像

カラー画像は必ずCMYKモードとし、RGBモードなどは不可です。インキの総使用量(CMYK各インキが最も多く重なっている部分の合計値)は250%を超えないようにします。数値が制限を超えると、印刷の品質に影響が出ますので、特にご確認ください。Photoshopのカラー設定は以下のようにします。

- 「カラー設定」を開き、「詳細設定モード」にチェックを入れる。
- 「作業スペース」の「CMYK」で「カスタムCMYK」を選ぶ。
- 右図を参照し、「色分解の種類」は「UCR」にチェックを入れ、「インキの総使用量の制限」は「250%」とする。

この設定にしておけば、RGBからCMYKに変換した場合、カラー画像のインキの総使用量は250%を超えることはありません。また、朝日新聞のカラー原稿送稿に最適な画像を作成できる、専用のプロファイル「**A-CAP 5**」もご提供していますので、ご活用ください。(⇒8ページ)



■ロゴの制作

ロゴなどを使用する場合は、できるだけIllustratorでトレースしたアウトラインデータを使用します。

モノクロ使用の場合は、モノクロ2階調画像も使用できます。その場合は、**使用原寸での解像度を1200dpiに設定します**。既定値以上の高解像度で作成された画像データでは、細い線(1ドットの幅)などが正常に印刷されないのをご確認ください。なお、モノクロ2階調画像には、スクリーンは反映されません。

■特殊スクリーンの設定

独自のスクリーンを使いたい場合は、網分解されたモノクロ2階調画像を作成して使用します。「**プリント**」ダイアログ内の「**ハーフトーンスクリーン**」での設定は使用不可です。

画像データを作成する Photoshop

■「A-CAP 5」を利用した画像データ制作

紙面で最適な色を再現するために、朝日新聞の印刷特性に基づいて作成したプロファイル「A-CAP 5」をご提供しています。「A-CAP 5」の入手については、<https://adv.asahi.com>をご覧ください。



[TOPページ]→[広告入稿ガイド]→[A-CAPについて]

https://adv.asahi.com/ad_info/ad_guide/

「A-CAP 5」は、原稿制作のためのプロファイルです。送稿データにはプロファイルを埋め込まないでください。

「A-CAP 5」を利用する場合は以下の設定にします。

「Library」→「ColorSync」→「Profiles」に「A-CAP 5」をコピーし、再起動します。

Photoshopを立ち上げ、「カラー設定」を開き（CS6以前は「詳細オプション」）にチェックを入れ、次のように設定します。

「作業用スペース」

- RGB: 必要に応じて任意のカラースペースを選択。
- CMYK: 「A-CAP 5」を選択。
- グレイ: 「Dot Gain 25%」を選択。

「カラーマネジメントポリシー」

- 制作環境に合わせたカラーマネジメント設定をする。

「変換オプション」

- 変換方法: 任意のCMMを指定。
- マッチング方法: 「相対的な色域を維持」か「知覚的」を必要に応じて選択。

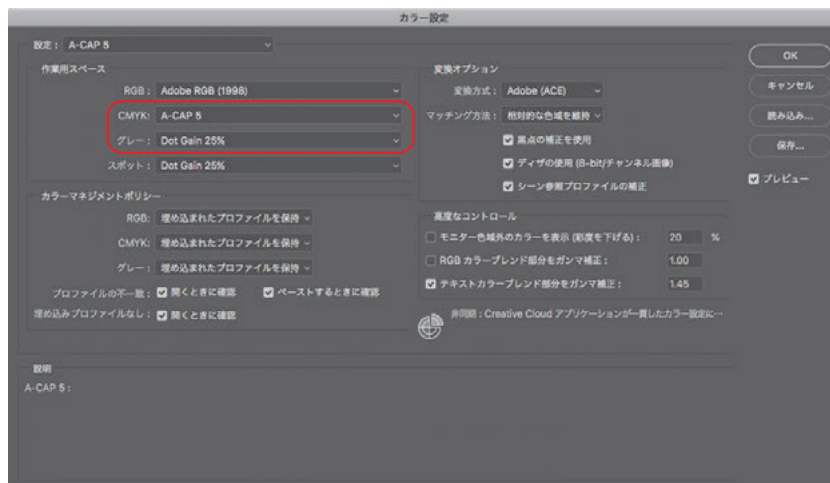
設定ができれば分かりやすい名前で保存をしておけば、他のカラー設定と切り替えて使うことができます。この設定で、画像データをRGBからCMYKに変換すれば、UCR250%以下の朝日新聞に最適なCMYK画像データが作成されます。この手順で作成したCMYK画像データは、変換後に大幅な色の補正をしないでください。補正の仕方によっては、UCRが許容値を超えてしまうことがあります。

■最終仕上がりのモニタでの確認

「A-CAP 5」を活用して、新聞の紙に印刷した最終仕上がりに近い色味を、モニタで確認することができます。Photoshopのメニューから[表示]→[校正設定]→[カスタム]（CS5以降）または[ビュー]→[校正設定]→[カスタム]（CS2～CS4）を開き、シミュレートするデバイスの項目で「A-CAP 5」を選択し、「CMYK値を保持」と「紙色をシミュレート」にチェックを入れます。

モニタで正確な色の確認を行うには、モニタのキャリブレーションが必須です。

「A-CAP 5」を利用したカラー設定



校正設定



校正設定で新聞の紙色をシミュレートすることができます。



■保存時のオプション

保存する際には、レイヤーは統合し、不要なアルファチャンネルは削除します。
適切なカラーモードに変換し、**ファイル形式はEPS**を選びます。

- 「プレビュー」は、カラーおよびグレースケール画像の場合は「TIFF (8bit/pixel)」を、モノクロ2階調画像の場合は「TIFF (1bit/pixel)」を選ぶ。「エンコーディング」については、「ASCII85」「ASCII」「JPEG- 最高画質 (低圧縮率)」のいずれかを選ぶ。

※JPEGエンコーディングは非可逆圧縮であり、圧縮率を高く設定すると特に品質が劣化する事があるので注意する。

- モノクロ2階調画像の場合は「白色部分を透明として扱う」に必ずチェックを入れる。それ以外の項目（「ハーフトーンスクリーンを含める」「画像補間方式」等）はすべてチェックを外す。



カラー・グレースケール画像

エンコーディングで「バイナリ」は選択しない。また、プレビューは「TIFF (8bit/pixel)」を選択する。



モノクロ2階調画像

プレビューは「TIFF (1bit/pixel)」を選択し、「白色部分を透明として扱う」に必ずチェックを入れる。

■プロファイルについて

送稿用の画像データについては、プロファイルが埋め込まれていると色のトラブルが起こります。プロファイルは埋め込まずに保存します。

また、外部に依頼したポシなどのスキャニングデータを扱う場合も、プロファイルが埋め込まれていないかを確認し、埋め込まれている場合は、プロファイルを埋め込まない設定で保存し直します。

プロファイルを埋め込まずに保存する方法

- 保存時のダイアログの「カラー」の「カラープロファイルの埋め込み: ×××」にチェックが入っていないことを確認する。チェックが入っている場合は、必ず外して保存する。



レイアウトデータを作成する

Illustrator

InDesign

使用アプリケーション **Illustrator** **InDesign**

レイアウトデータの作成に使用するアプリケーションは、**Adobe Illustrator CS2(12.0.1)**以降または**Adobe InDesign CS4(6.0.x)**以降を推奨します。
モノクロ原稿の場合は**Illustrator**を推奨します。
※**InDesign**の場合は、モノクロ原稿で「透明」「効果」の使用は不可です。

■サイズ

広告の原稿サイズは、「**原稿サイズ表**」(⇒29ページ)をご参照ください。
レイアウトデータのドキュメントのサイズは下記の通り作成します。

Illustratorの場合は、**アートボードのサイズを広告の原稿サイズと完全に一致させ**、すべてのオブジェクトがアートボードからはみ出さないように配置する。

Illustrator

InDesignの場合は、**ページサイズを広告の原稿サイズと完全に一致させ**、すべてのオブジェクトがページサイズからはみ出さないように配置する。

InDesign



書類の設定

新規ドキュメントを作成する時に、サイズを広告の原稿サイズにする。詳細設定で「カラーモード」は「CMYK」になっていることを確認する。

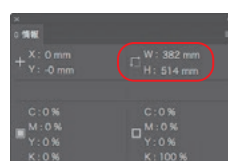
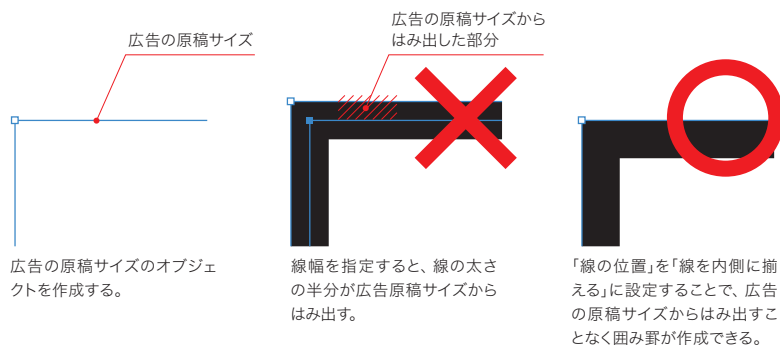
■フォント

使用しているフォントは、必ずすべてアウトライン化します。

■囲み罫

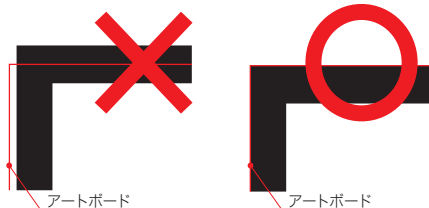
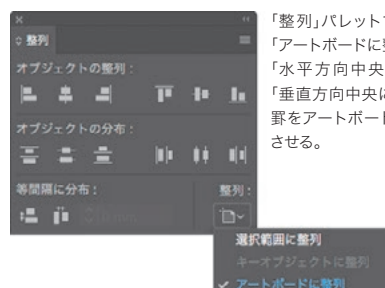
囲み罫を作成する場合は、「線の位置」を「線を内側に揃える」に設定して、囲み罫のサイズと広告の原稿サイズが完全に一致するようにします。囲み罫がアートボードまたはページサイズからはみ出した場合、罫の一部またはすべてが欠けて印刷される場合がありますのでご注意ください。

囲み罫を線幅指定で作成する場合(例) **Illustrator** **InDesign**



Illustratorの場合、「環境設定」または「整列」パレットで「プレビュー境界を使用」にチェックを入れておくと、線幅も含めた正確なオブジェクトサイズを情報パレットで確認できる。

アートボードに整列 **Illustrator**



「整列」を使用することにより、正確にアートボードに配置できる。



囲み罫やその他のオブジェクトがアートボードまたはページサイズからはみ出した場合、原稿の一部またはすべてが印刷されない場合があります。

■トンボ

送稿データにはトンボは不要です。

■色の指定とオーバープリント

色の指定はカラー原稿の場合はCMYK、モノクロ原稿の場合はグレースケールのカラーモデルを使います。RGB及び特色での指定は不可です。また、「レジストレーション」で指定すると出力エラーとなりますので使用しないでください。

CMYKで指定する場合は、色を正確に表現できなくなることがあるので、4色のインキの総使用量が250%を超えないようにします。また、色の掛け合わせの指定をする場合は、スミ版が90%を超えないようにします。

スミ100%のオーバープリントについては、各アプリケーションでの設定通り反映されます。カラー上にスミ100%の文字やオブジェクトをのせたい場合は、オーバープリントが適用されるように設定してください。スミ100%以外のオーバープリントは、問題が発生しますので不可です。(⇒17、19ページ)



■画像データの配置

配置した画像データは、必ずすべて埋め込みます。

■「透明」「効果」

「透明」「効果」を使用する場合は、[効果]→[ドキュメントのラスタライズ効果設定]で「解像度」の項目を「その他:350ppi」に設定します。また、モノクロ原稿の場合は、「カラーモード」の項目を「グレースケール」に設定し、透明オブジェクトの分割・統合を行い、適切にグレースケールに変換する必要があります。(⇒12ページ)

※InDesignの場合は、モノクロ原稿で「透明」「効果」は使用できません。

「ドキュメントのラスタライズ効果設定」



カラー原稿の場合は「カラーモード」の項目を「CMYK」に、モノクロ原稿の場合は「グレースケール」に設定する。

■パターン・ブラシ

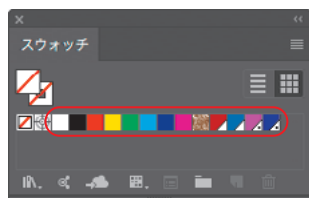
パターン・ブラシを使用している場合は、ラスタライズするか分割処理を行ってください。(⇒20ページ)

■バージョンについて

異なるバージョンで作成したデータの互換性に注意してください。データを流用する際には、そのデータがどのバージョンで作成されているかを確認し、以前のバージョンで作成したデータの場合は流用せず、新規に作成するようにします。

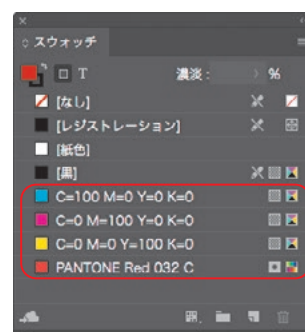
■スウォッチの削除

Illustratorを使用する場合は、送稿データを保存する前にスウォッチを削除してください。「なし」「レジストレーション」(Illustrator)または「なし」「レジストレーション」「紙色」「黒」(InDesign)は削除できないので、それ以外のスウォッチをすべて削除します。特色や独自に作成したスウォッチが残っていると出力エラーとなる場合があります。



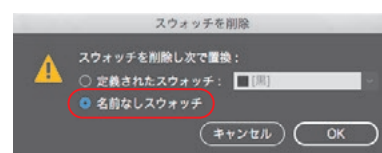
「なし」(なし)と「レジストレーション」(レジストレーション)以外のスウォッチはすべて削除する。

Illustrator



「なし」「レジストレーション」「紙色」「黒」以外のスウォッチはすべて削除する。「スウォッチを削除し次で置換」では「名前なしスウォッチ」を選択する。

InDesign



モノクロ原稿の注意点

Illustrator

モノクロ原稿で「透明」「効果」を使用している場合は、PDFを作成する際にCMYKでイメージが作成されるため、透明オブジェクトをラスタライズし、グレースケールに変換する必要があります。以下の手順で処理してください。

■透明オブジェクトの確認

透明オブジェクトの確認には「分割・統合プレビュー」を使用します。

「分割・統合プレビュー」パレットの「更新」をクリックし、「ハイライト」の項目で「影響されるすべてのオブジェクト」を選択すると、透明オブジェクトと影響を受ける箇所が表示されます。「影響されるすべてのオブジェクト」がグレースケールで表示されている場合は、透明オブジェクトを使用していないので、処理は不要です。

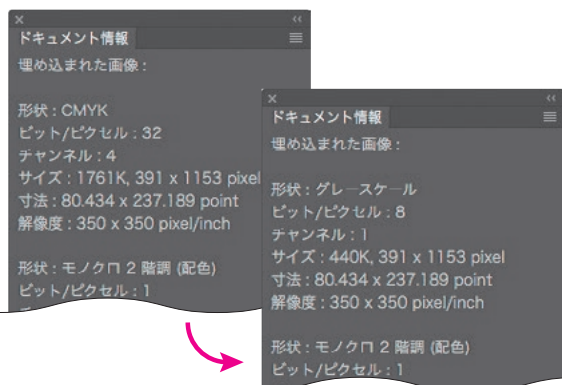


「分割・統合プレビュー」の「影響されるすべてのオブジェクト」で透明オブジェクトと影響を受ける箇所があるかを確認する。

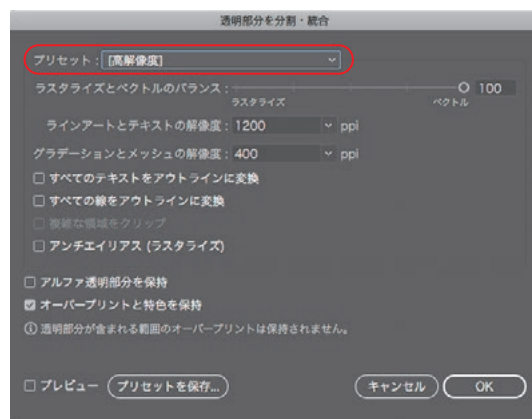
■透明オブジェクトの分割・統合

「分割・統合プレビュー」で確認した透明オブジェクトと影響を受ける箇所をすべて選択し、[オブジェクト]→[透明部分を分割・統合...]で「プリセット」の項目で「高解像度」を選択し、「OK」をクリックします。

続いて分割・統合されたオブジェクトが選択された状態で、[編集]→[カラーを編集]から[グレースケールに変換]を選択し、CMYK オブジェクトをグレースケールオブジェクトに変換します。モノクロ2階調画像はグレースケールオブジェクトに変換すると階調が反転するので、そのまま変換せずに送稿します。



分割・統合されたオブジェクトが適切にグレースケールに変換されたかは、「ドキュメント情報」の「埋め込まれた画像」で確認する。



透明オブジェクトの分割・統合を行う場合は、「プリセット」の項目で「高解像度」を選択する。

ロゴ2階調

ロゴ2階調

埋め込まれたモノクロ2階調画像は、階調が反転するのでグレースケールオブジェクトに変換しない。



モノクロ原稿で「透明」「効果」を使用している場合は、適切な処理を行わないと送稿データの検証（⇒16ページ）でエラーが出るので注意します。InDesignを使用している場合はこの処理が行えないので、モノクロ原稿で「透明」「効果」の使用は不可です。

保存前の確認

送稿用データを保存する前に、以下の点を確認します。

Illustrator

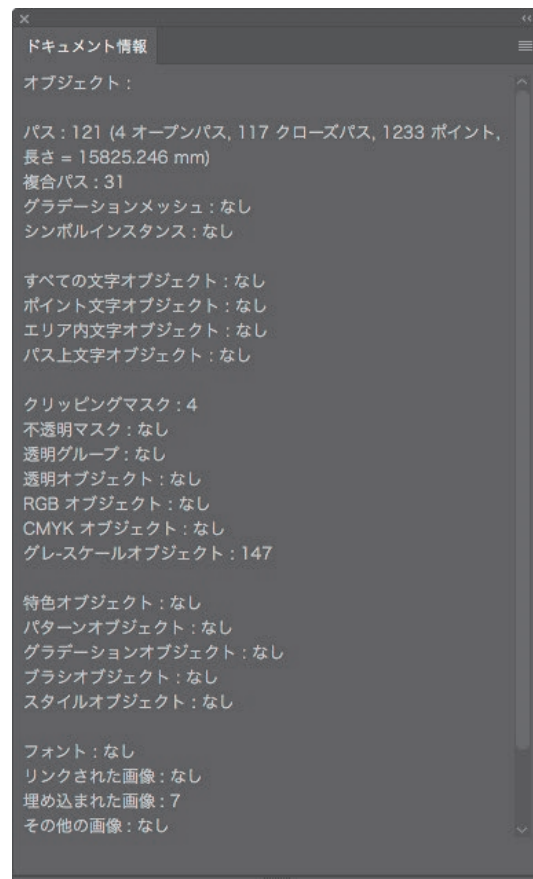
主な項目については「ドキュメント情報」で確認することができます。

■「ドキュメント情報」で確認できる項目

- 「カラースペース」が「CMYK カラー」になっているかを確認する。
- 「RGB オブジェクト」がないことを確認する。
- モノクロ原稿の場合は「CMYK オブジェクト」がないことを確認する。
- フォントがすべてアウトライン化されているかを確認する。
- 配置した画像がすべて埋め込まれているかを確認する。
- モノクロ原稿の場合は埋め込んだ画像がグレースケールになっているかを確認する。

■その他の確認項目

- 広告の原稿サイズとアートボードは完全に一致しているか、またアートボードとズれていないかを確認する。
- 色の指定で、インキの総使用量が250%を超えていないかを確認する。
- 孤立点や不要なオブジェクト、ガイドは削除する。
- レイヤーは1つにまとめておく。
- 「透明」「効果」を使用している場合は、「ドキュメントのラスタライズ効果設定」を正しく設定しているかを確認する。
- 「レジストレーション」と「なし」以外のスウォッチをすべて削除する。



InDesign

「プリフライト」を利用すると、いくつかの情報の確認が容易にできます。プリフライト項目はカスタマイズすることができます。必要に応じて使用してください。

■「プリフライト」で確認できる項目

- 「フォント」: フォントがすべてアウトライン化されているかを確認する。
- 「リンクと画像」: 画像を配置している場合は、すべての画像が埋め込まれているか、「ICCProfile」が「なし」になっているかを確認する。

■その他の確認項目

- 広告の原稿サイズとページサイズは完全に一致しているか、またページサイズとズれていないかを確認する。
- モノクロ原稿の場合は「透明」「効果」を使用していないことを確認する。
- 色の指定をRGBで行っていないか、インキの総使用量が250%を超えていないかを確認する。
- 孤立点や不要なオブジェクト、ガイドは削除する。
- レイヤーは1つにまとめておく。



保存の準備

送稿データを保存する前に、送稿データ作成用の「Adobe PDFプリセット」およびPDFデータ検証用の「プリフライトプロファイル」のインストールを行う必要があります。本データは、下記サイトからダウンロードできます。

朝日新聞社メディアビジネス局 Web サイト「@ADV」

<https://adv.asahi.com>

[@ADV]トップ ▶ [媒体資料] ▶ [あっと! デジタル ver.10]

■インストール方法

ダウンロードしたデータを解凍してください。

以下の3つのファイルがあります。

- 朝日新聞2013.joboptions (PDFデータ作成用 Adobe PDFプリセット)
- 朝日新聞カラー 2018.kfp (カラー原稿用プリフライトプロファイル)
- 朝日新聞モノクロ2018.kfp (モノクロ原稿用プリフライトプロファイル)



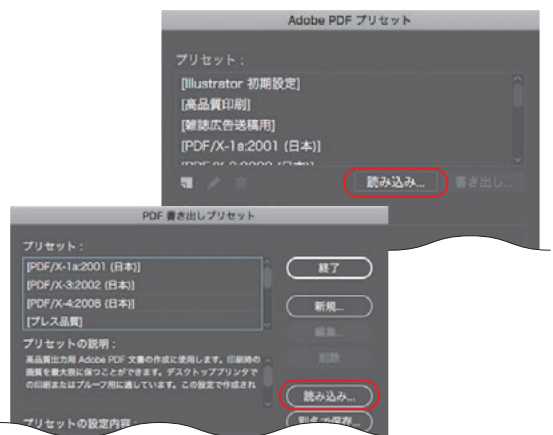
Illustrator への「Adobe PDFプリセット」のインストール

メニューから[編集]→[Adobe PDFプリセット]を選択し、「読み込み」をクリックしてダウンロードしたファイル「朝日新聞2013.joboptions」を読み込みます。

InDesign への「Adobe PDFプリセット」のインストール

メニューから[ファイル]→[PDF書き出しプリセット]→[定義]を選択し、「読み込み」をクリックしてダウンロードしたファイル「朝日新聞2013.joboptions」を読み込みます。

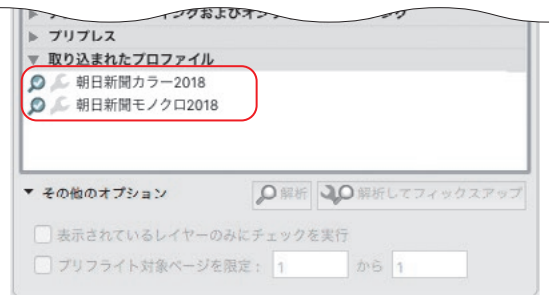
※「Adobe PDFプリセット」のインストールは、IllustratorまたはInDesignのどちらか片方で行えば共用できます。



Illustratorの「Adobe PDFプリセット」(右上)とInDesignの「PDF書き出しプリセット」(左下)

Acrobat への「プリフライトプロファイル」のインストール

Acrobat Standard、Acrobat Readerは使用できません。メニューから[アドバンスド]→[プリフライト] (ver.9) または [編集]→[プリフライト] (ver.X以降) を選択し、オプションから「プリフライトプロファイルを取り込み」を選択してダウンロードしたファイル「朝日新聞カラー2018.kfp」および「朝日新聞モノクロ2018.kfp」を読み込みます。読み込んだプロファイルは「取り込まれたプロファイル」の欄に表示されます。

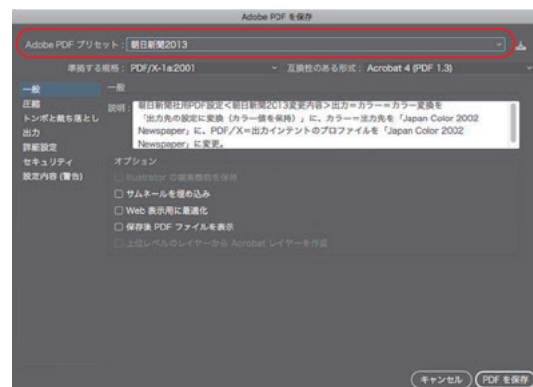


送稿データの保存

送稿データを保存する場合は、**朝日新聞の送稿データ作成用「Adobe PDF プリセット」**(⇒14ページ)を使用し、以下のいずれかの手順で行います。これ以外の方法で作成したPDF送稿データでは、問題が発生する場合があります。

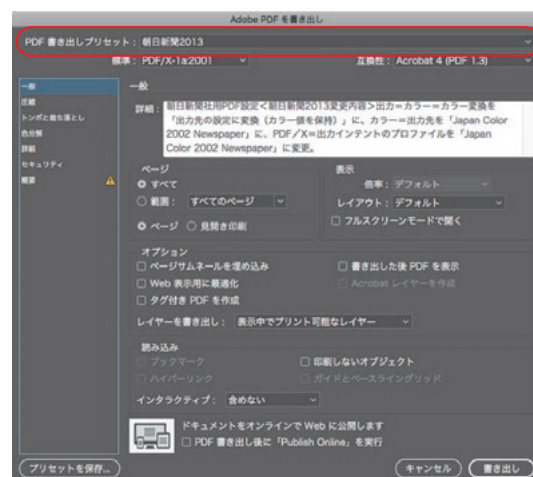
Illustrator からPDFを書き出す

- 保存の際に「フォーマット: Adobe PDF(pdf)」を選択。
- 「Adobe PDFプリセット」は「朝日新聞2013」を選択する。この時、**各種設定**を変更しないで保存する。



InDesign からPDFを書き出す

- 書き出しの際に「フォーマット: Adobe PDF」を選択。
- 「PDF書き出しプリセット」は「朝日新聞2013」を選択する。この時、**各種設定**を変更しないで保存する。



送稿データを検証する Acrobat

送稿データの検証

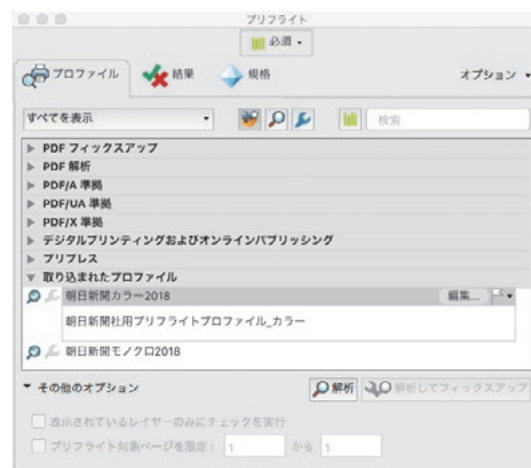
送稿データは、Adobe Acrobatの「プリフライト」(①)および「出力プレビュー」(②)を使用して検証をします。

送稿データの検証は、以下の要領で行います。

①プリフライト

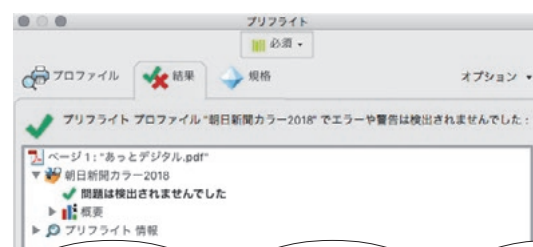
プリフライトの実行

- メニューから[編集]→[プリフライト](ver.X以降)または[アドバンスド]→[プリフライト](ver.9)を選択する。
- 検証用のプロファイルは、カラー原稿の場合は「朝日新聞カラー2018」、モノクロ原稿の場合は「朝日新聞モノクロ2018」を選択する。
- 「解析」をクリックして検証を行う。



プリフライトの結果

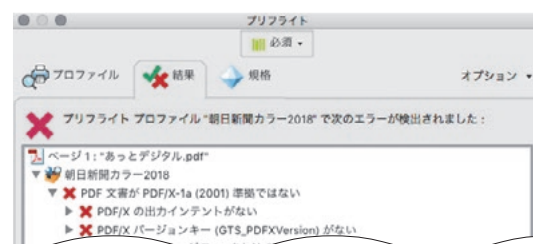
プリフライトの結果でエラーが表示されたら、不具合のある箇所を確認し、レイアウトデータを修正します。確認が必要な項目が検出された場合は、情報に基づいて確認作業を行い、問題がなければ送稿します。不明な点は弊社までお問い合わせください。



エラーや警告が検出されなかった場合は、そのまま送稿する。



確認が必要な項目が検出された場合は、指摘された箇所を確認し、問題があれば修正を。なければそのまま送稿する。



エラーが検出された場合は、不具合のある箇所を確認し、レイアウトデータを修正する。

②出力プレビュー

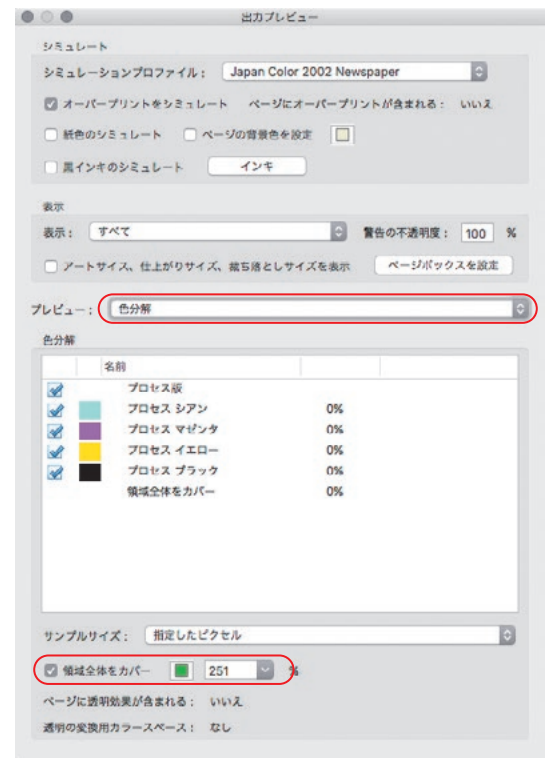
インキの総使用量の確認

インキの総使用量が250%を超えている個所がないかを確認するには、以下の手順で検証します。

- メニューから[表示]→[ツール]→[印刷工程]→[出力プレビュー] (ver.X以降)、または[アドバンスト]→[印刷工程]→[出力プレビュー] (ver.9)を選択。
- 「プレビュー:色分解」を選択し、「領域全体をカバー」にチェックを入れ、「251%」を入力する。

プレビューウィンドウ内で  色に覆われた個所があれば、そこはインキの総使用量が250%を超えています。250%以内にデータを修正します。

また、プロセス4色以外の特色や、モノクロ原稿でスミ以外の色を使用している場合も、この項目で確認できます。



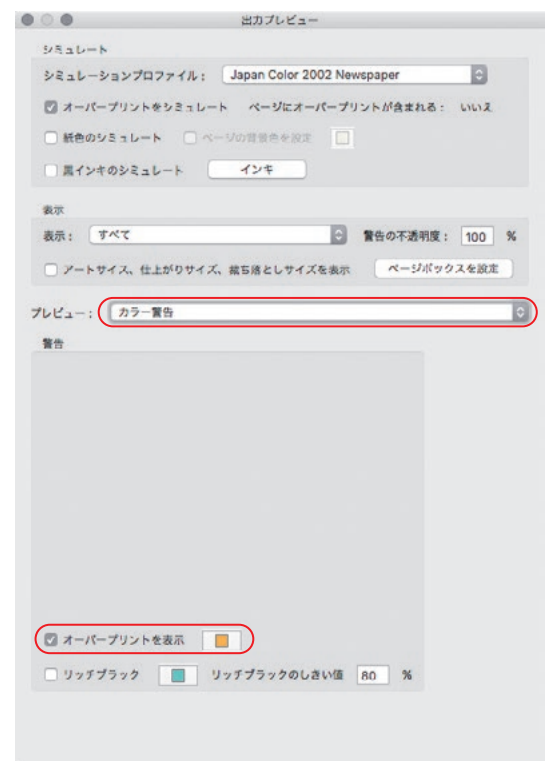
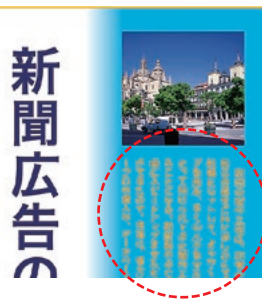
オーバープリントの確認

オーバープリントの設定が適切に行われているかを確認するには、以下の手順で検証します。

- メニューから[表示]→[ツール]→[印刷工程]→[出力プレビュー] (ver.X以降)、または[アドバンスト]→[印刷工程]→[出力プレビュー] (ver.9)を選択。
- 「プレビュー:カラー警告」を選択し、「オーバープリントを表示」にチェックを入れる。

プレビューウィンドウ内で  色に覆われた個所があれば、そこはオーバープリントが設定されています。

スミのオーバープリントが正しく設定されているか、または色網にオーバープリントが適用されていないかを確認します。(⇒ 19 ページ)



出力トラブルの回避

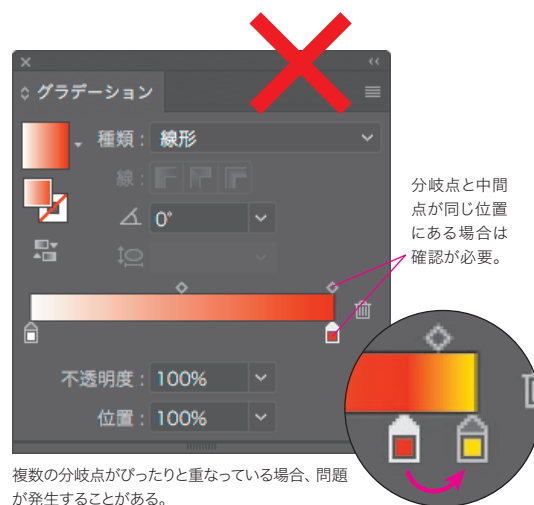
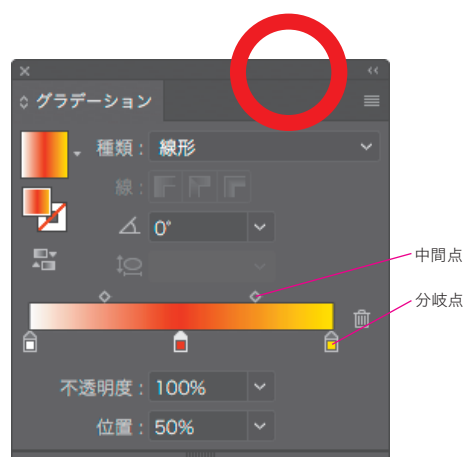
■グラデーションの注意点

Illustratorでグラデーションを使用する場合は、以下の点に注意してください。

Illustrator

異なる色が割り当てられている複数の分岐点が、同じ位置でぴったりと重なっている場合は、出力エラーとなる場合があります。分岐点と中間点がある場合は修正します。

また、線にグラデーションを指定したり、孤立点にグラデーション指定があると出力エラーとなります。



■線の指定の注意点

2点を直線で結ぶ線(パス)に、線幅を設定し

Illustrator

InDesign

ないで塗りで色を指定すると、モニタ画面上では見えていても印刷されないの注意が必要です。またこの時、塗りがグラデーションで指定されていると、出力エラーとなります。



■ふち取り文字の注意点

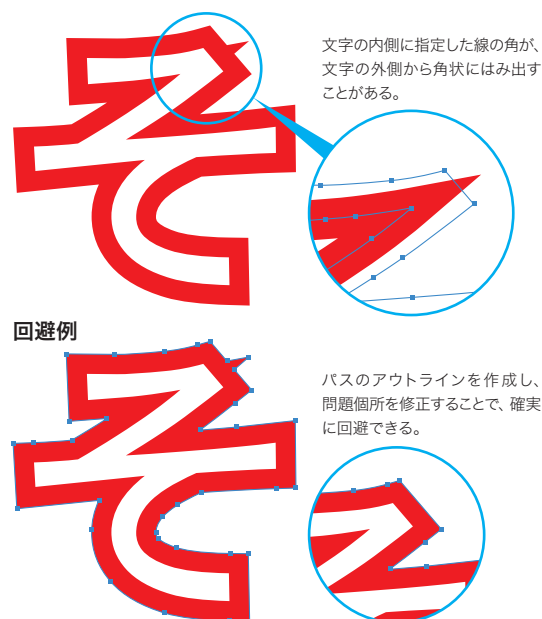
ふち取り文字を使用する場合、鋭角な角の部分に不要な角状

Illustrator

のオブジェクトが印刷されてしまうことがあります。これは文字に線の指定をした際に、内側の角が文字の外側からはみ出してしまふことにより発生します。特に細いフォントや、線幅の数値が大きい指定をした場合は、発生しやすくなります。

この症状は、モニタ画面や印刷の解像度の違いから、モニタ画面上やゲラでは確認できず、印刷時にのみ発生する場合がありますので注意が必要です。回避するために、できるだけ以下の方法でデータを作成してください。

- 線の指定をした文字をアウトライン化し、Illustratorの[オブジェクト]→[パス]→[パスのアウトライン]でパスのアウトラインを作成し、問題箇所があれば修正をする。

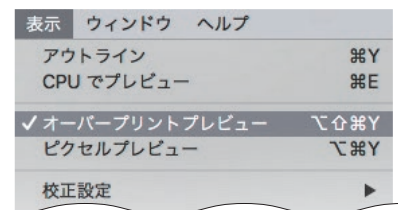


■オーバープリントの注意点

スミ100%以外のオーバープリントは、出力トラブルにつながります。また、カラー上の白オブジェクトなど、必要のないオブジェクトにオーバープリントが設定されていると、画面上の表示と出力結果が異なる場合がありますのでご注意ください。

「オーバープリントプレビュー」を活用することにより、出力結果をシミュレートできます。

IllustratorやInDesignのメニューから[表示]→[オーバープリントプレビュー]を選択する。



オーバープリントの設定がされていても、画面上では確認できず、意図しない出力結果になる場合があります。



「オーバープリントプレビュー」を利用することで、画面上で出力結果をシミュレートすることができます。

■複数ページを含む送稿データの注意点

複数のアートボード (Illustrator) またはページ (InDesign) を設定している場合は、送稿データを保存する前に不要なアートボードを削除し、1つのアートボードまたはページのみになります。送稿データに複数のページが含まれていると、出力トラブルの原因になります。



送稿データに複数のページが含まれていると、Acrobatのプリフライトの結果でエラーとなる。

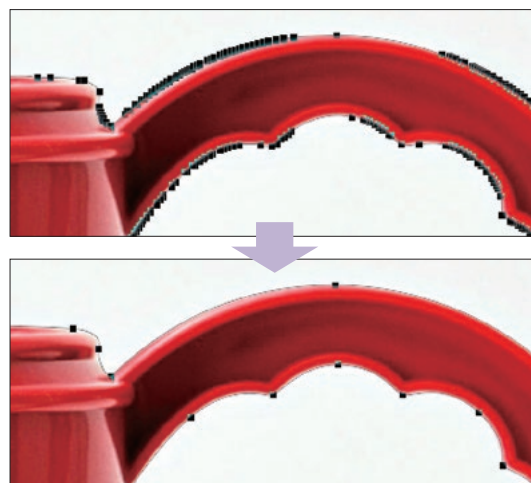
■パスの多いデータの注意点

複雑なパスを多く含むオブジェクトが使用されていると、出力エラーとなる場合があります。必要以上に複雑なクリッピングパスはできるだけシンプルなパスに変更し、パスの多いオブジェクトの一部をマスクして使用する場合は不要な部分は削除するなどの工夫をお願いします。



複雑で大きなマップのデータなどの一部をクリッピングマスクで使用する場合は、不要な部分はできるだけ削除し、データが軽くなるようにする。

Illustrator



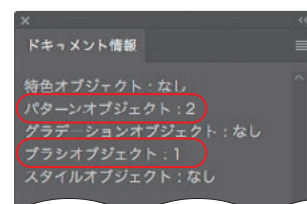
Photoshopで作成するクリッピングパスは、必要以上に複雑にせず、できるだけシンプルにすることで出力エラーを回避できる。

Photoshop

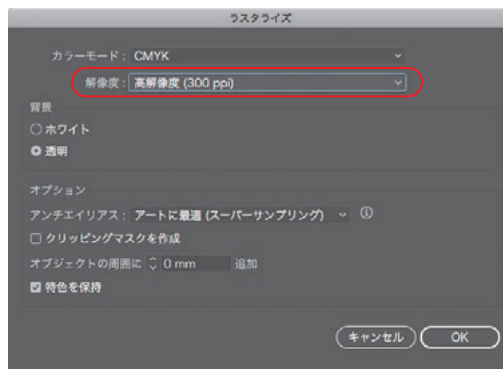
■パターン・ブラシの注意点

Illustratorでパターン・ブラシを使用している場合に、出力エラーとなる場合があります。使用している場合は、①オブジェクトを選択し、メニューから[オブジェクト]→[ラスタライズ]で画像に変換。または、②オブジェクトを選択し、パターンの場合はメニューから[オブジェクト]→[分割・拡張]、ブラシの場合は[オブジェクト]→[アピアランスの分割]のいずれかの処理を行ってください。

Illustrator



Illustratorでは「ドキュメント情報」でパターンとブラシが使用されているかを確認できる。



「ラスタライズ」で画像に変換する場合は、「解像度」は「高解像度(300dpi)」を選択する。



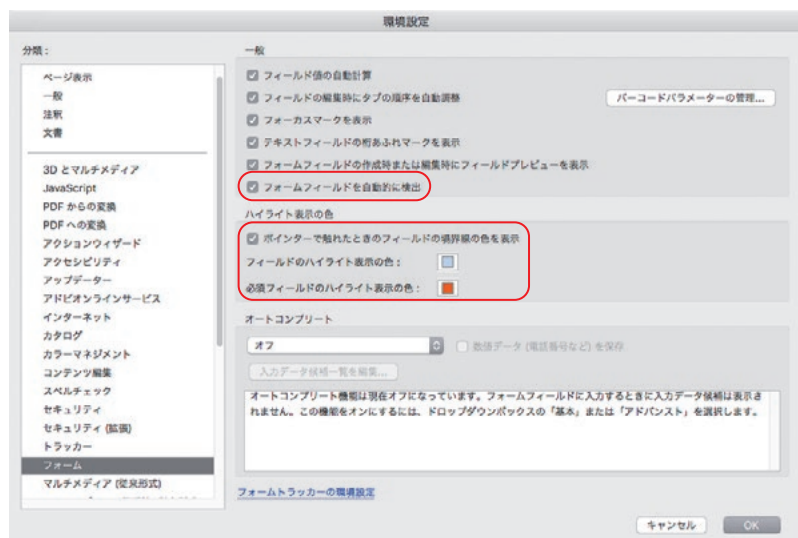
パターンの場合は「分割・拡張」、ブラシの場合は「アピアランスの分割」の処理でも可。

■送稿データ(PDF)の加工の注意点

各アプリケーションから書き出した送稿データ(PDF)は、Acrobatなどで加工をしないでください。修正が必要な場合は、各アプリケーションで作業し、再度書き出しを行ってください。

送稿データ作成用のAdobe PDFプリセットで書き出したPDFはフォームフィールドは含まれませんが、Acrobatなどでフォームや注釈を加えると出力エラーとなります。PDFにフォームフィールドが含まれているかは以下の手順で確認できます。

- Acrobatの「環境設定」の「フォーム」の項目で、「フォームフィールドを自動的に検出」と「ポインターで触れたときのフィールドの境界線の色を表示」にチェックを入れる。(下)
- 書類にフォームフィールドがあればハイライト表示される。(右)

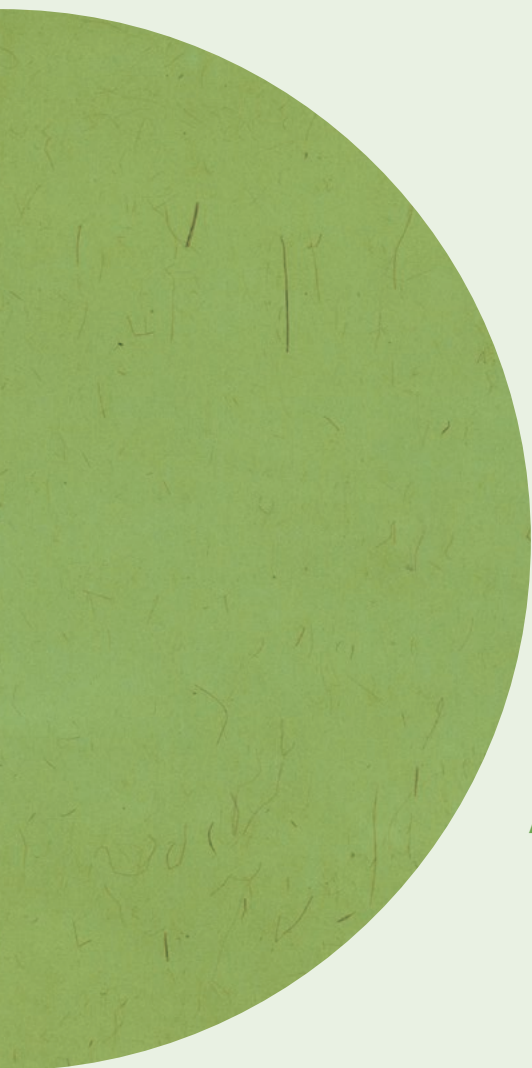


フォームフィールドが確認された場合は、本マニュアルに記載のPDFの保存方法で保存し直し、保存後は加工をせずに送稿する。

送稿後、エラーで困ったときは――

送稿後にデータの不具合によりエラーが発生した際に、送稿エラー時のメッセージにより原因を特定できる場合があります。弊社担当者に送稿エラー時のメッセージの内容を確認し、以下を参照しご対応ください。

送稿エラー時のメッセージ	原 因	対 処 法
TAC値エラー	インキ総使用量が250%をオーバーしている。	「インキ総使用量の確認」を参照し、インキ総使用量が250%オーバーしているオブジェクトを見つけて、250%以内に収まるように修正する。 (⇒17ページ)
パターン使用	パターンで指定されたオブジェクトがある。	「パターン・ブラシの注意点」を参照し、エラー検出されたパターン・ブラシを「ラスタライズ」または「分割」する。(⇒20ページ)
オーバープリント	色網にオーバープリントが設定されている。	「オーバープリントの確認」を参照し、オーバープリント設定を確認し、スミのオーバープリント設定が正しくされているか、色網にオーバープリントが設定されていないことを確認。(⇒17、19ページ)
レジストレーションカラー	レジストレーションカラーで指定されたオブジェクトがある。	「色の指定とオーバープリント」を参照。レジストレーションカラーは使用しない。(⇒11ページ)
フォームフィールドあり	送稿データ(PDF)にフォームフィールドがある。	本マニュアルに記載のPDFの保存方法で保存し直し、書き出した送稿データ(PDF)は、Acrobatなどで加工をしない。(⇒13～15、20ページ)
透明効果あり	透明オブジェクトがある。	『「透明」「効果」』の設定を参照し、本マニュアルに記載のPDFの保存方法で保存し直す。 (⇒11～15ページ)
スポットカラー	スポットカラーで指定されたオブジェクトがある。	特色などのスポットカラーで色を指定していたら、適切な色で指定し直す。不要なスウォッチは削除する。(⇒11ページ)
PDF/X出力インテント指定なし	PDF/Xの規格に準拠していない。	本マニュアルに記載のPDFの保存方法で保存し直す。 (⇒13～15ページ)
PDF/X-1a:2001適合しない	PDF/X-1aの規格に準拠していない。	本マニュアルに記載のPDFの保存方法で保存し直す。 (⇒13～15ページ)



送 稿

ワークフロー

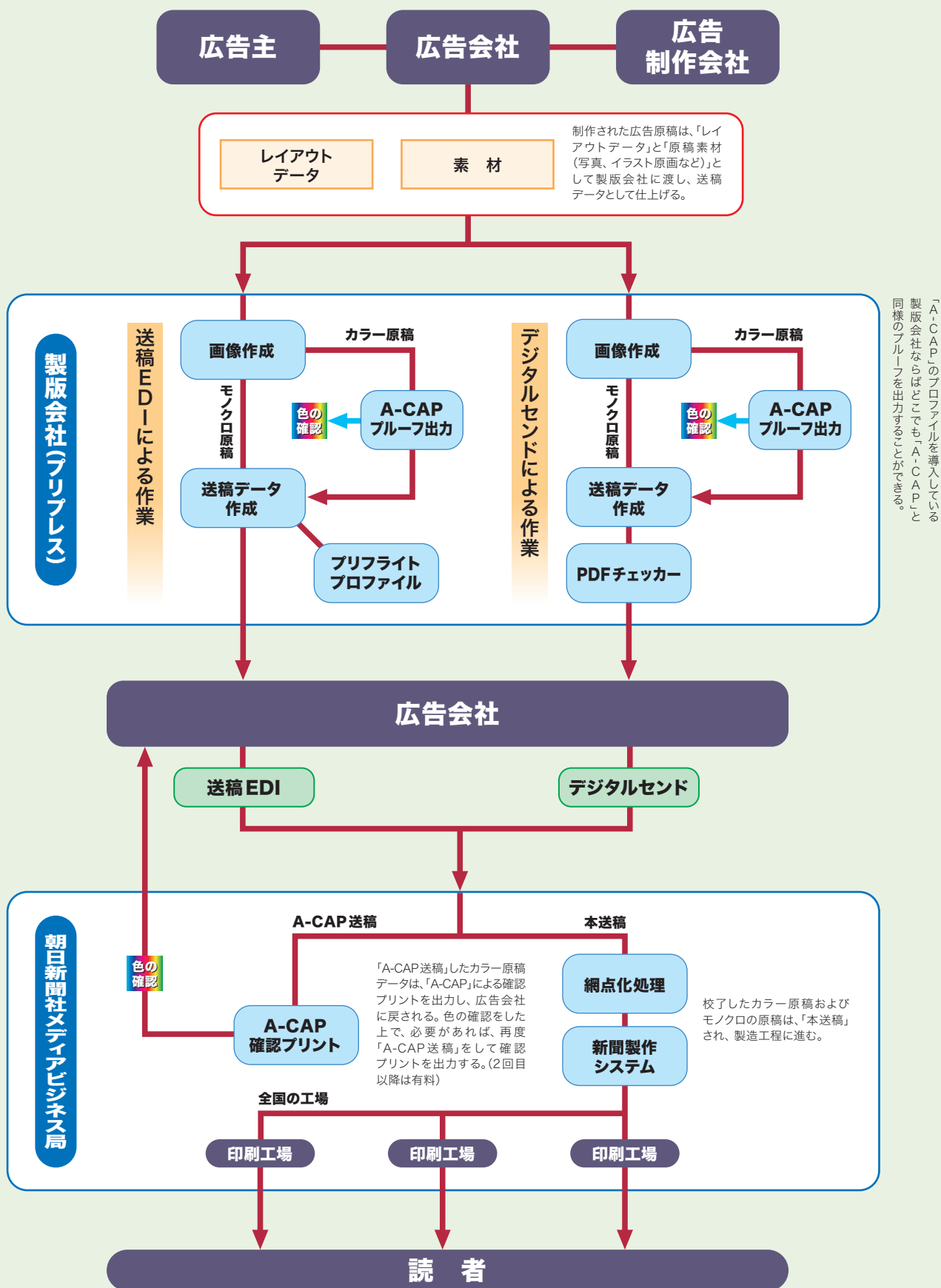
本送稿の手順

ゲラ書き

送稿の種類

A-CAP 送稿

原稿制作から送稿、新聞掲載までの流れ



本送稿の手順

朝日新聞の広告原稿を送稿する方法は「送稿EDI」または「デジタルセンド」を利用したオンライン送稿となります。

カラー広告の場合は、色校正ゲラ添付が不要のA-CAPによる送稿が可能です。
本送稿の前に「A-CAP送稿」を行ってください。A-CAP送稿についての詳しい手順は、27ページをご参照ください。

※パノラマ判については別途ご相談ください。

本送稿に必要なもの

■送稿データおよびゲラ

		送稿データ	ゲラ
送稿EDI	カラー	○	○ ^{※1}
	モノクロ	○	— ^{※2}
デジタルセンド	カラー	○	○ ^{※1}
	モノクロ	○	— ^{※2}

※1：校正ゲラまたはA-CAPゲラを添付。

※2：送稿時に自動生成されるので不要。

■カラー広告の送稿に必要な色校正ゲラの枚数

	朝刊通し	セット版	夕刊
東京本社版	47枚	41枚	30枚
大阪本社版	28枚	25枚	24枚
西部本社版	13枚		7枚
名古屋本社版	7枚		
北海道支社版	9枚		

A-CAP送稿の場合は、A-CAPゲラ1枚のみで可。

本送稿日(本紙)

送稿日は以下の通りです。

カラー原稿の場合	色校正ゲラ	掲載日の4営業日前の14時(朝刊・夕刊共通)
	A-CAPゲラ	プルーフ入稿(出力依頼)は掲載日の3営業日前 入稿(校了)は掲載日の2営業日前
モノクロ原稿の場合		掲載日の1営業日前(朝刊は14時、夕刊は17時)

ゲラには以下の項目を明記します。

■ 必須項目

- A**掲 載 社(掲載社ごとに掲載日が異なる場合は、それぞれ明記します。)
B掲 載 日(日幅のある申し込みで掲載日が決定していない場合は、申し込み日幅を明記します。)
C刊 別
D広 告 主 名(申し込み広告主名と必ず同一にします。覆面申し込みの際は、覆面広告主名を明記します。)
E広 告 件 名(申し込み広告件名と必ず同一にします。覆面申し込みの際は、覆面広告件名を明記します。)
F掲 載 段 数(サイズ)
G色 種 別
H広告会社名

■その他

- 企画広告内の原稿の場合は、**企画広告名**も明記します。
- 各社にまたがる申し込みの場合は、各社同一原稿か、別原稿かを明記します。
また、別原稿の場合は、別原稿部分をマーカーなどで明瞭にします。
- 改稿原稿の場合は、改稿部分をマーカーなどで明記します。
- 社野が不要な場合は、不要な個所を明記し、不要部分を点線で指示します。

■ゲラ書き項目詳細例

ナンバ一	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
項 目	掲載社	掲載日	刊 別	広告主名	広告件名	掲載段数	色種別	広告会社名	備 考	審査印
記入内容 (例)	朝日・北海道 朝日・東京 朝日・名古屋 朝日・大阪 朝日・西部	5/22	朝刊 通し 朝刊 統合 朝刊 セット 夕刊	〇〇〇〇社 △△△△△	〇〇〇電話 △△△発表	小型(表札) 小型(記事中) 小型(突出し) 記事下 3段 記事下 5段 記事下 7段 記事下 15段 記事下 30段	カラー モノクロ	〇〇広告社	C版なし3色 K版切替あり	※印が押せる スペースを 確保する

■記入例

項目があれば書く。
何もない場合は「なし」と書く。

[illegible]

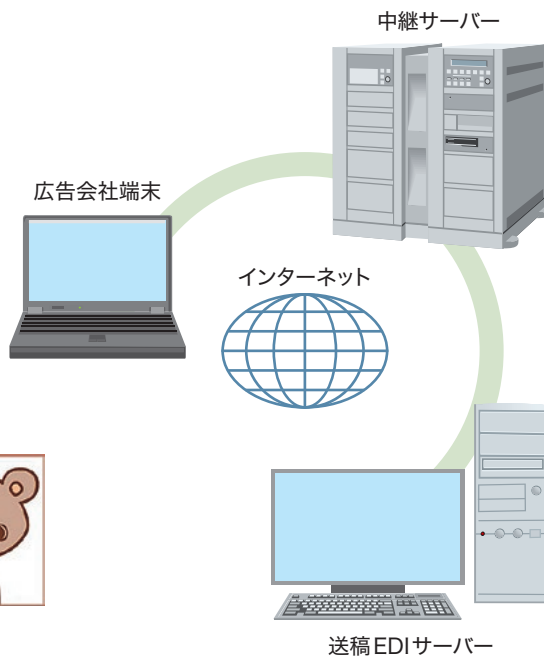
送稿の種類

送稿 EDI

朝日新聞社の送稿は「送稿 EDI」で行います。パソコンに専用のアプリケーションをインストールし、中継サーバーを介して送稿を行います。送稿 EDI の使用方法など、詳しくは弊社までお問い合わせください。(⇒表 4 ページ)



送稿 EDI の操作画面とアイコン



デジタルセンド

朝日新聞社へのオンライン送稿は(株)デジタルセンドのオンライン送稿も利用できます。(株)デジタルセンドに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

☎ 03-5572-7781 Web サイト <http://www.digital-send.com>

カラー広告を送稿する場合は、校正ゲラを添付する方法と、「A-CAP送稿」を利用する方法があります。A-CAP送稿では、掲載時に近い状態で色の最終確認が行え、確認プリントを念校ゲラとして代用することができます。使用にあたっては朝日新聞掲載が条件となります。A-CAP送稿を利用する場合は、本送稿前に行います。

オンライン送稿について、詳しくは弊社までお問い合わせください。

A-CAP 送稿

「A-CAPエントリーシート」に記入し、担当者にお渡しください。

A-CAP コンディショナー										型式 4000 製造年 2006	
設置場所			設置場所			設置場所			設置日 		
									年月	日	
設置場所 			設置場所 			設置場所 					
設置場所の状況										設置場所 	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											
設置場所 											

■A-CAP エントリーシート

広告会社の方は、「A-CAPエントリーシート」に必要事項を記入する。

確認プリント

A-CAP出力した確認プリントをお
戻しします。直しがある場合は2回目
の出力をします。

●1 回目の出力

確認プリントとして5枚を無料出力。

6枚目からは有料。

●2回目以降の出力

プレミアムプリントは有料。

1 回に10枚まで。

確認プリントのお渡し

午前受け付け分	当日の夕方
午後受け付け分	翌日の午前中

本 送 稿

規定の送稿日までに送稿データを
本送稿し、「A-CAP出力紙1枚(念校)」
を担当者にお渡しください。



規 格

原稿サイズ表

FMスクリーンについて

チェックシート

原稿サイズ表

カラー、モノクロともに原稿サイズは下記の表を適用してください。下記に表記のない、小型広告、変形広告、パノラマワイド、パノラマ6、エリア広告特集など、特殊サイズの広告については弊社までお問い合わせください。

■原稿サイズ

天 地		左 右	
1 段	32mm	全段	382mm
2 段	66mm	2 割	190mm
3 段	101mm	3 割	126mm
4 段	135mm	4 割	94mm
5 段	170mm	5 割	75mm
6 段	204mm	6 割	62mm
7 段	239mm	7 割	53mm
8 段	273mm	8 割	47mm
9 段	307mm	9 割	41mm
10 段	342mm	10 割	37mm
11 段	377mm	12 割	30mm
12 段	411mm	14 割	26mm
13 段	445mm	16 割	22mm
14 段	480mm	18 割	20mm
15 段	514mm	二連版	789mm

編集記事の段組み(12段制)とは異なります。

新聞協会推奨の広告原稿入稿サイズ「N-SIZE」での入稿も可能です。

→「N-SIZE」	天 地		左 右	
	1 段	32mm	全段	378mm
	2 段	66mm	2 割	188mm
	3 段	100mm	二連版	784mm
	5 段	168mm		
	7 段	237mm		
	10 段	339mm		
	15 段	511mm		

■ユニット広告原稿サイズ

	ユニット	天 地	左 右
記事中	1/2U	40mm	25mm
	1U	40mm	50mm
突き出し	2 段 2U	83mm	50mm
	3 段 3U	126mm	50mm
	4 段 4U	170mm	50mm
	1 段横 2U	40mm	100mm
	2 段横 3U	83mm	75mm
	2 段横 4U	83mm	100mm

ユニット広告は、1 ユニット(1U)を基本単位とします。「記事中ユニット」は記事の中、「突き出しユニット」は記事の左端・右端に位置します。

■ハーフページ原稿サイズ

	天 地	左 右
ハーフページ	256mm	380mm
ハーフページ二連	256mm	787mm

FMスクリーンについて

朝日新聞のカラー広告を送稿する際にご利用いただいているA-CAPシステムは、FMスクリーンに対応しています。朝日新聞で採用しているFMスクリーンでは以下のメリットがあります。

- 高精細なディテールの再現性。
- モアレ、ロゼッタパターンが発生しない。
- より原色に近い鮮やかな色調。
- 滑らかな階調表現。

■ディテールの再現性

従来のAMスクリーンは、階調を網点の大きさを変えることで表現していました。FMスクリーンでは、均等な大きさの細かいドットを、密度を変えて配置することで階調を表現します。ドットの大きさを微細化・均一化することで、より高精細なディテール表現が可能となっています。

■モアレの解消

AMスクリーンにおいて、網点を線数に応じて等間隔に配置するために発生する、モアレやロゼッタパターンは回避が難しいものでした。FMスクリーンではドットをランダムに配置するために、これらの問題が発生することがありません。また、ドットの微細化により、線切れやジャギーも目立ちません。

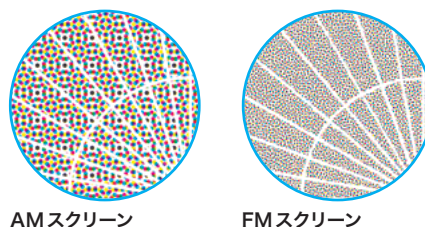
■仕上がりの安定性

FMスクリーンでは小さいドットのみを使用しますので、濃度の高い部分でのインキの供給量の変動による影響を受けにくく、安定した品質が得られます。またインキの重なりが少ないため、濁りの少ない鮮やかな色調が再現でき、インキの乾燥という点でも優れています。

■滑らかな階調表現

FMスクリーンは階調が豊富なため、繊細で滑らかな階調表現が可能となります。

ディテールの違い

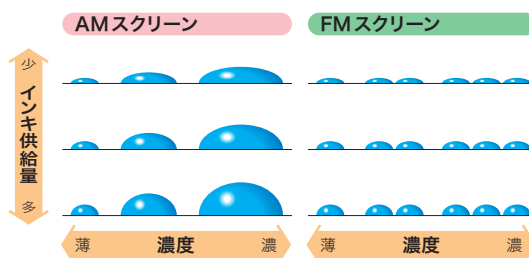


AMスクリーン

FMスクリーン

FMスクリーンのドットは小さく、ランダムに配置されるので、高精細なディテールが再現でき、モアレやロゼッタパターンが発生しにくい。

インキの供給量による影響



FMスクリーンのドットは小さく大きさが均一で、インキの供給量の変化による影響を受けにくいので、色の再現性が安定している。

滑らかな階調



FMスクリーンでは滑らかな階調表現が可能となる。

チェックシート

完成した送稿データは、送稿の前に必ず以下のチェックシートに従い、すべての項目について確認を行ってください。

チェック欄

	アプリケーションはバージョンも含め、指定のもので制作しているか。(⇒5ページ)	
画 像	インキの総使用量が250%を超えていないか。(⇒7ページ)	
	画像データのカラーモードは、モノクロの場合グレースケールまたはモノクロ2階調に、カラーの場合はCMYKカラーに指定されているか。RGBまたは特色で指定していないか。(⇒7ページ)	
	画像データにプロファイルが埋め込まれていないか。(⇒9ページ)	
	画像の形式および解像度は適切か。(⇒7ページ)	
レ イ ア ウ ト	原稿サイズおよびアートボード(Illustrator)またはページサイズ(InDesign)は合っているか。はみ出ている部分はないか。(⇒10ページ)	
	Illustratorで罫線を引いた場合、線の指定は正しくできているか。また罫線で囲ってある原稿の場合、線幅が原稿サイズからはみ出していないか。(⇒10ページ)	
	レイアウトデータのカラーモデルは、カラー原稿の場合はCMYKに、モノクロ原稿の場合はグレースケールに指定されているか。RGBで指定していないか。(⇒11ページ)	
	モノクロ原稿の場合は、Illustratorで作成しているか。InDesignでモノクロ原稿を作成した場合は、「透明」「効果」を使用していないか。(⇒10、11ページ)	
	フォントはすべてアウトライン化しているか。(⇒10ページ)	
	配置した画像はすべて埋め込んでいるか。(⇒11ページ)	
	「透明」「効果」を使用している場合は、「ドキュメントのラスタライズ効果設定」および保存時の設定を適切に行っているか。(⇒11ページ)	
	モノクロ原稿(Illustrator)で「透明」「効果」を使用している場合は、透明オブジェクトをラスタライズし、適切にグレースケールに変換しているか。(⇒12ページ)	
	孤立点などの不要なデータは削除しているか。(⇒6ページ)	
フ ア イ ル 管 理	送稿データのプリフライトチェックおよび出力プレビューでの確認を行ったか。(⇒16・17ページ)	
	送稿データのウイルスチェックを行ったか。	

[illegible]

Adobe、Adobe Acrobat、Adobe Illustrator、Adobe InDesignおよびAdobe Photoshopは、Adobe Systems Incorporated(アドビ システムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。Mac、macOSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc. の商標です。その他記載されているブランド名・製品名は、個々の所有者の商標、もしくは登録商標です。

このマニュアルの内容の無断転載を禁じます。このマニュアルの仕様は変更される場合があります。

このマニュアルに規定されていない設定をお使いの場合は、事前にテスト送稿していただくか、弊社までお問い合わせください。

朝日新聞

「あっと! デジタル」はインターネットでもご覧になれます。

朝日新聞社メディアビジネス局Webサイト「@ADV」

<https://adv.asahi.com>

[\[@ADV\]トップ](#) ▶ [\[媒体資料\]](#) ▶ [\[あっと! デジタル ver.10\]](#)

※OS、アプリケーションのバージョンアップ対応などの最新情報が閲覧できます。

■お問い合わせは

東京本社メディアビジネス局広告編成部 ☎03-5540-7771

大阪本社メディアビジネス局編成管理部 ☎06-6201-8330

西部本社メディアビジネス部 ☎092-477-6623

名古屋本社メディアビジネス部 ☎052-222-5047

※北海道紙面については、東京本社・広告編成部までお問い合わせください。

